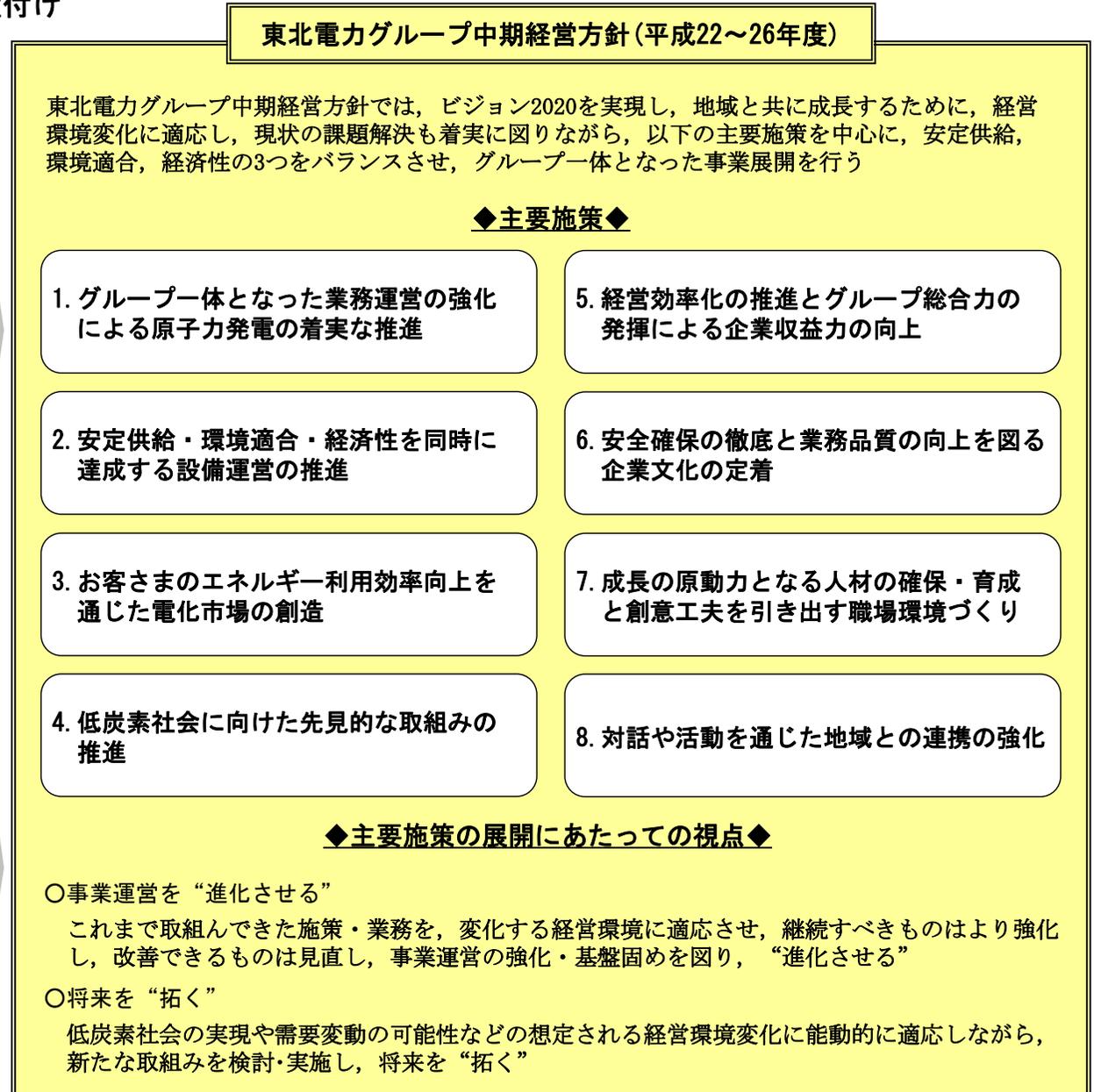
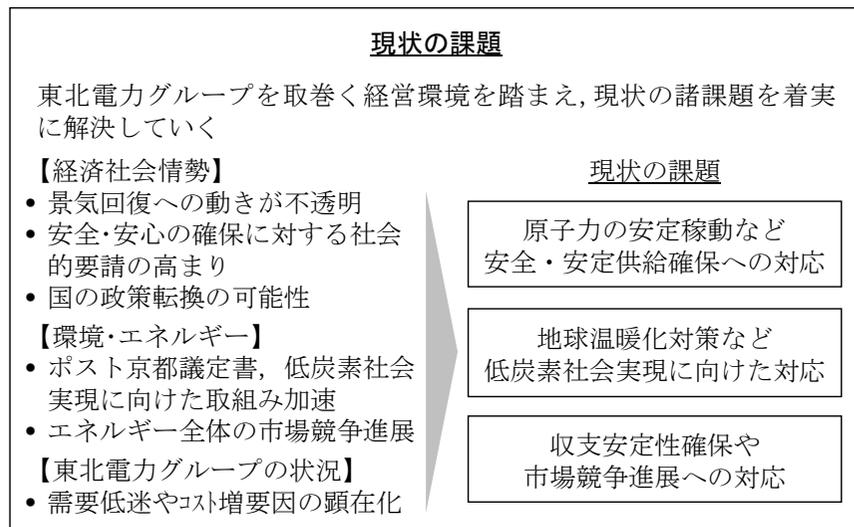
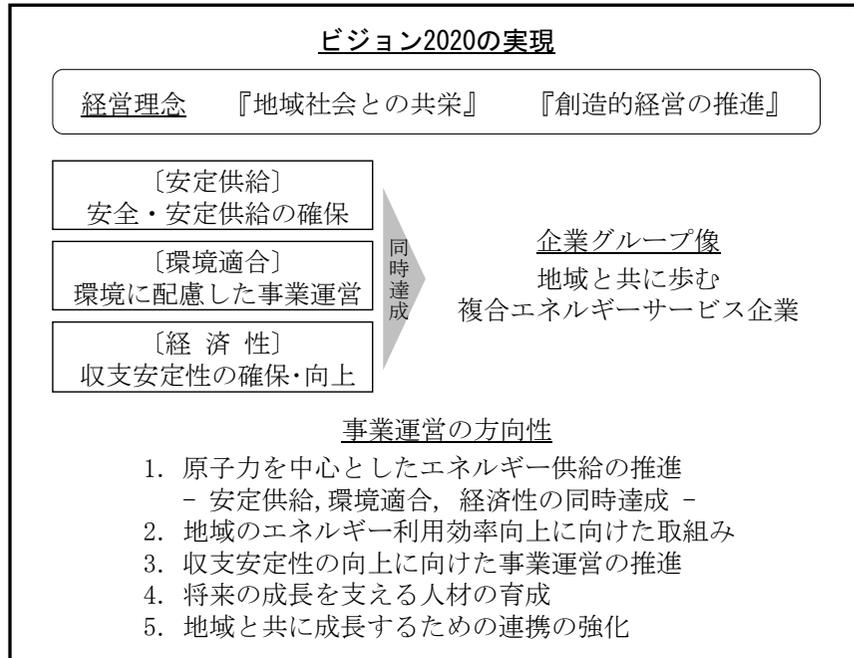


当社は、平成21年6月に、経営の長期的な方向性を示した「東北電力グループ経営ビジョン2020 ～地域と共に～」を策定した。これは、不確実性の高い経営環境下においても、将来にわたって当社の使命を全うしながら持続的に成長し、地域との共栄を果たしていくための道標である。

「東北電力グループ中期経営方針(平成22～26年度)」は、ビジョン2020で示した方向性のもと、グループ一体となってビジョン2020の実現に向けた諸施策に取り組むための5カ年の方針である。

本方針に基づき、各本部・間接各部ならびにグループ各社は、相互に連携・協力しながら、それぞれの中期計画において、具体的な取組みを織込み、実践していく。

◆「東北電力グループ中期経営方針(平成22～26年度)」の位置付け



◆主要施策

以下の主要施策の展開にあたっては、『事業運営を“進化させる”』視点と『将来を“拓く”』視点をもって取組む。

1. グループ一体となった業務運営の強化による原子力発電の着実な推進

- 業務運営体制の見直し・強化などを実施し、安全最優先の徹底と更なる業務品質の向上を図り、原子力の安全・安定運転を行います
- 原子力マネジメントを強化し、それに基づく人材育成・技術力確保に向けた取組みなどを進めるとともに、地域社会の信頼を得ながら、将来にわたり原子力を着実に推進します

2. 安定供給・環境適合・経済性を同時に達成する設備運営の推進

- 経年化や大規模自然災害を踏まえた設備対策の着実な実施などにより、地域から信頼され、安定供給・環境適合・経済性を同時に達成する設備運営を推進します
- 原子力発電の推進、火力発電熱効率の向上、自然エネルギーの有効活用、京都メカニズムの活用などの地球温暖化対策を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組めます

3. お客様のエネルギー利用効率向上を通じた電化市場の創造

- 環境性に優れたヒートポンプによる電化提案によって、東北地域の特性に合わせた電化市場の創造を図ります
- お客様から信頼され選択され続けるために、お客様ニーズを実現するエネルギー利用の提案やソリューションをグループの総合力で提供し、お客様の満足とエネルギー利用効率向上を実現します

4. 低炭素社会に向けた先見的な取組みの推進

- 低炭素社会やエネルギー利用・供給形態の変化などに適応した設備運営のあり方を検討し、経営環境の変化に先見的に対応した設備形成・運用を行います
- 低炭素社会に向けて、将来の変化を能動的に捉え、グループのノウハウ・経営資源を最大限活用しながら、事業機会の可能性の探求や技術開発などを積極的に推進します

5. 経営効率化の推進とグループ総合力の発揮による企業収益力の向上

- 需要の減少や燃料価格の変動、環境適合コストの増加など、厳しい経営環境の中、安全確保と安定供給を図りながら、経営効率化を推進するとともに、エネルギー需要の創造により、企業収益力の向上を目指します
- グループ各社の機能・役割の明確化やPDCAサイクルの改善など、安定供給と収益性確保の両立に向けた機能別事業運営の強化・徹底に取組み、グループの総合力を高めます

6. 安全確保の徹底と業務品質の向上を図る企業文化の定着

- 業務全般にわたり、「原子力発電所の品質保証に係る意識改革元年」(平成18年度)の精神に常に立ち返り、安全確保の徹底と業務品質を向上させる取組みを継承し、安全文化を定着させます
- 「安全・保安方針」ならびに「原子力安全に関する品質方針」に基づき、安全確保最優先の行動、常に問い直す習慣、情報共有を基本に、労働安全・設備保安・原子力安全に対する取組みの充実を図ります

7. 成長の原動力となる人材の確保・育成と創意工夫を引き出す職場環境づくり

- 人的基盤の強化や人材育成施策の推進により、「現場」を支える人材、環境変化に先見のかつ柔軟に対応できる人材、地球規模の課題に対応できる人材など、成長の原動力となる人材をグループで確保・育成します
- 職場の活性化を進め、社員の能力や意欲を最大限に引き出す職場環境づくりを進めます

8. 対話や活動を通じた地域との連携の強化

- 「地域と共に成長する東北電力グループ」の企業姿勢がより一層理解され、地域との信頼が深められるよう、地域の皆さまとの対話や支援活動を継続します
- 地域との関わりを意識した業務運営の実践や人的ネットワークの強化などを通じて、地域との連携を強めながら、地域と東北電力グループとの「共有、共感、共栄」の基盤づくりを進めます